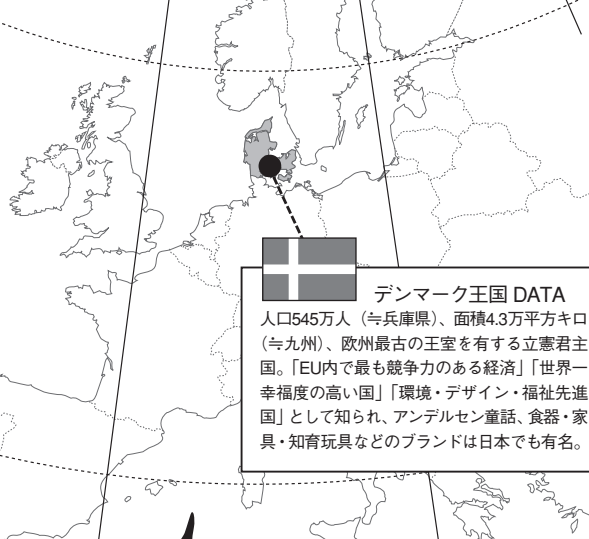




コペンハーゲン通信 7



デンマーク王国 DATA
 人口545万人（≒兵庫県）、面積4.3万平方キロ（≒九州）、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「EU内で最も競争力のある経済」「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

当会事務局職員が、昨年1月より在デンマーク日本大使館に外向しています。「EUの中で最も競争力のある経済」（世界経済フォーラム）との評価を受けるデンマークからの現地報告を不定期にお届けします。

オープン・イノベーション

齋藤 弘憲

在デンマーク日本大使館一等書記官
 （経済同友会事務局より外向中）



◆草の根で広がる「フューチャーセンター」

先日、OECDとデンマーク政府が、「オープン・イノベーション」に関するシンポジウムをコペンハーゲンで共催しました。シンポジウムに出席した日本の政府関係者が会議後、デンマークの「フューチャーセンター」を視察されるというので、同行させていただきました。「フューチャーセンター」とは、オープン・イノベーションを推進する未来志向の組織・施設の総称なのですが、イメージが難しいので、実例をご紹介します。

◆政策のイノベーションを目指す「Mind Lab」



第一の例は、経済産業省、雇用省、税務省が共同所管する政策シンクタンク「Mind Lab」です。オフィスはまるで最先端の流行を追うファッション雑誌の編集部のような雰囲気です。オープンスペースの随所に議論の輪が広がっていました。



ジーンズ姿で登場した若い所長の説明によれば、このラボは公的部門における「顧客志向のイノベーション」を推進するため、先見的な政策提言・調査を行っており、政治学、人類学、情報通信、デザインなど多様な専門スタッフのほか、各省や企業からの外向者や大学院生らが加わり、革新的な政策提言を生み出しているとのことでした。

◆革新的な企業文化を築く「Business Lab」

第二の例は、北欧最大の保険会社が設立した社

内研究・研修施設「Business Lab」です。「イノベーター」の肩書を持つ担当者は「保険業は成熟産業であり、イノベーションとは無縁に見える。しかし革新的な企業文化を築き、『安心の提供』という原点に立ち返り、新しいビジネスモデルを生み出し続けなければ将来の成長はない。こうした危機意識からこの施設は生まれた」との話がありました。

ここには「新生」「愛情」「不安」など十数種類の心理効果を演出できる照明・音響設備が備



えられ、奇抜なオブジェが並んでいます。このような雰囲気の中で、社員のみならず、顧客、代理店など多様な関係者が参加し、組織内の常識や固定観念の壁を打破し、革新性に富む組織に変革するための先鋭的な研究・研修が実施されています。

◆イノベーションを生み出す環境

そのほかの例も含めて共通するのは、①多種多様な専門分野や異なる価値観を持った人々を意識的に集めている、②「ファシリテーション（議論を中立的立場からまとめあげていく）」というキーワードがよく使われる、③発想の柔軟性や創造性を高めるために、非日常空間（時に斬新、奇抜なインテリアなど）を演出している、ことです。

視察の帰り道に、ふと経済同友会の設立の原点というのも、ある意味で未来を考える「フューチャーセンター」の先駆け的なものであったといえるのではないかと思えてきました。

* 「コペンハーゲン通信」は次号より一時休載し、7月号から再開いたします。